

橋高：坂川さんが同じ育ち方をしてるのは、もう、見てわかると、青木さんのほうは、オレが捨ててしまったほうの方向性を、そのままやり続けているから、ホントにこのふたりがやってることを、ひとりでやれたらいいなって、いつも思ってるのね(笑)。  
坂川：オレも、最初見た時から、橋高くんは他人とは思えませんでした。アルージュの時からライティングV使ってたし。ライブ見るとすごい走りまわってるでしょ？ それでよくあんなに弾けるなど思うけど。

橋高：いやー、でもテープを聴くと落ち込むんだよね。走りまわったりしてる時って、演奏のほうはちょっとヤバくなってくるでしょ？ でも弾いてる時は、青木さんと同じ方向性の自分が頭をもたげてきて“ライブの時は、演奏が多少乱れようが何しようが、見た目はカッコいいほうがいいんだ！”って思っちゃうんだけど、家に帰って、マイケル・シェンカーとかに憧れてる自分に戻った時にライブのテープを聴くと、もう落ち込んでさ(笑)。だからこのふたつの自分と、つねに戦ってるの。

坂川：やっぱりそうだよ。ステージ・パフォーマンスと演奏の両方とも完璧にするなんてできないもん。  
橋高：それが理想なんだけども。

坂川：逆に、ビデオとかで真剣にソロを弾いてる自分を見るとイヤじゃない？

橋高：けっこうね(笑)。「あれ？なんでオレは立ちんぼなんだ!?」みたいな。

坂川：でもステージでギター壊されちゃったのには「やられた！」って思ったな。オレ、武道館でギター壊すのが夢だもん。

橋高：ですよね(笑)。

◆青木くんから見た橋高くんって、どんなギタリスト？

青木：いやー、やっぱり金髪だし、メイク濃いし(笑)。ギターはカッコいいし。もう、サイコーですわね。

◆お互いのファッション・センスについてはどう思う？

橋高：いやー、もうオレは元アルージュだから(笑)。ああいうのは好きですよ。カブキの衣装の新しいほうのバージョンあるでしょ？ あれは着たいよ、当然。オレはメイクもしたいもん、ほんとは(笑)。

坂川：橋高くんは、やっぱり浮いていようが何しようが、好きなことをやっていけるっていうのは、いいんじゃないかと思えますね。うちにしろ筋力にする、バラバラだって言われるのはあるけど、それだからおもしろいと思うし。ぜんぜん違うタイプのギタリストがふたりいて、ちょっとふつうじゃないボーカリストがいて(笑)。

## ★坂川→橋高

祝！ギター教室 発刊！  
脱 肝臓フォアグラ状態！  
これからもエグイギターで  
ギョウギョウとばしてください。

KABUKI ROCKS  
坂川美女丸

## ★青木→橋高

この世界でCDと本を出せるということは、きっと神に選ばれた人だと思うんで、今後も活躍してください。つけたし…普段着のメタル・ファッションがイカしているんで今後も続けてください。

青木秀樹

## ★橋高→坂川&青木

対談したのはカブキロックスのセカンド・アルバムを出した頃だったかな。で、勢いづいて、そのままのユニットで固まってガッチリしたバンドとして活動していくと思った。でも、青木さんが脱退してしまって、このふたりは離れてしまった。なんでそうなったのかは、この対談を読んでもわかんないと思う。けっきょく、かたややるだけギターを弾かずにかっこいいギタリストでいたいっていうのがあって、かたやテクニカルなプレイでキッズをノックアウトしたいというのがあったでしょ。そのふたりが同居しているところがおもしろかった。でも、ミュージシャンというものはエゴを持っていて、またそのエゴがないとミュージシャンをやる資格もないからさ、それぞれ違う道を歩いていくのも自然なりゆきだと思う。

青木さんが抜けたからといってカブキロックスのファンは青木さんをせめちやいけな。見守ってあげてほしい。また逆に青木さんが抜けたからカブキロックスを聴かないっていうのもおかしいと思うんだよね。もしかしたらカブキロックスであって、前とは違う新しいバンドになるかもしれない。青木さんは今、ラヴミサイルというバンドをやっているんだけど、そっちがじつはカブキロックスなのかわかんないし、新しいカブキロックスなのかもしれない。そのへんはみんながライブを見に行ったりして自分の耳やカラダで確かめてほしいよね。

わざわざ別離してまでめざした方向、押し通そうとしたスタイルを、おたがいに確立して、みんなに知らしめてほしいと思っている。また飲みに行きましょう。



☆坂川美女丸



☆青木秀樹

坂川美女丸(さかがわびじよまる)は☆9月19日生まれ、三重県出身、B型。青木秀樹(あおきひでき)は☆年11月4日生まれ、長野県出身、O型。

86年10月、ハデなヴィジュアルのハード・グラマラス・ポップ・バンド、HYSTERIC GLAMORを結成、89年8月にはミニ・アルバム「GLAMOROUS POP」(自主制作)を出している。東京都内のライブハウスで活動し、注目されていた。

89年10月、カブキロックスを結成して「イカ天」に出演。このあたりから全国的に有名になる。90年5月に沢田研二の「TOKIO」のカヴァー「お江戸」でシング

ル・デビュー。同じ年の6月にファースト・アルバムの「KABUKI-ROCKS」を、91年3月にはセカンド「MASQUERADE」を発表。

青木秀樹(秀麻呂)は、91年7月に、音楽性の違いによりカブキロックスを脱退。新しいバンド、ラヴミサイルを結成して、92年4月23日にデビュー・シングル「涙のラストキス」を、5月21日にアルバム「ファースト・キス」を出す。4月22日には渋谷ON AIRでライブ。

坂川美女丸は、91年11月にカブキロックスのシングル「MOONLIGHT BIRTHDAY」を出し、現在はサード・アルバムを制作中だ。